

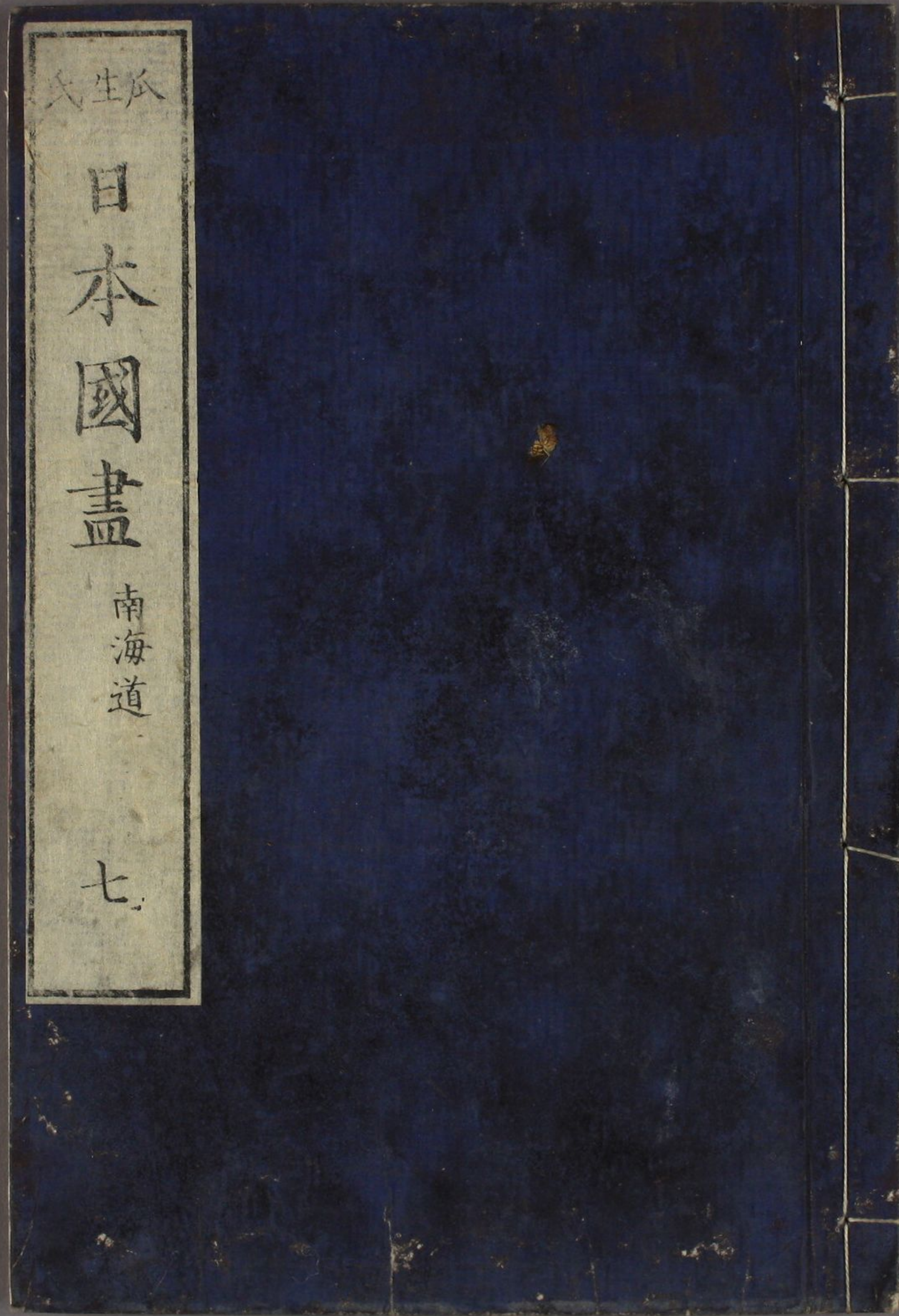


瓜生氏

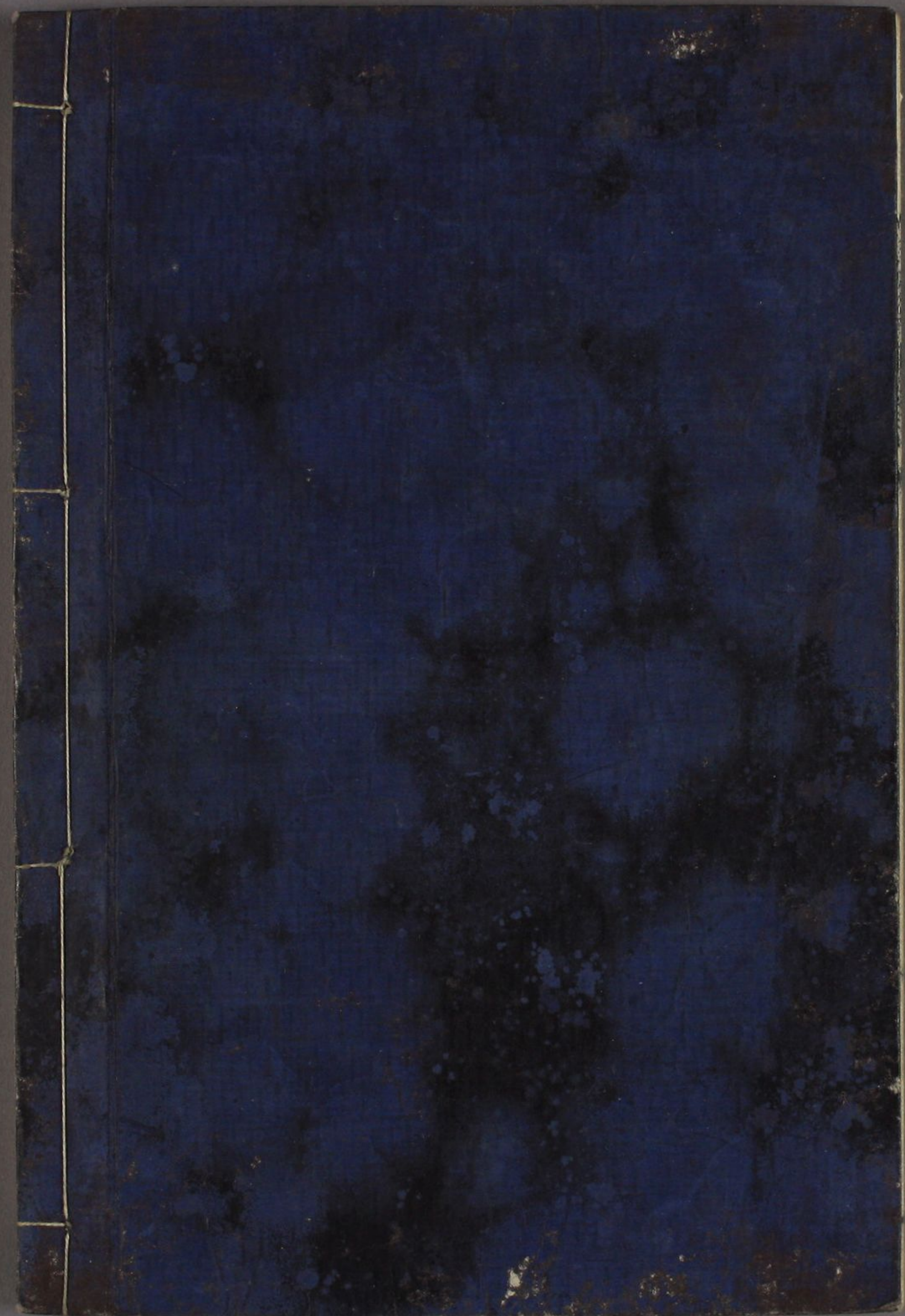
日本國畫

南海道

七







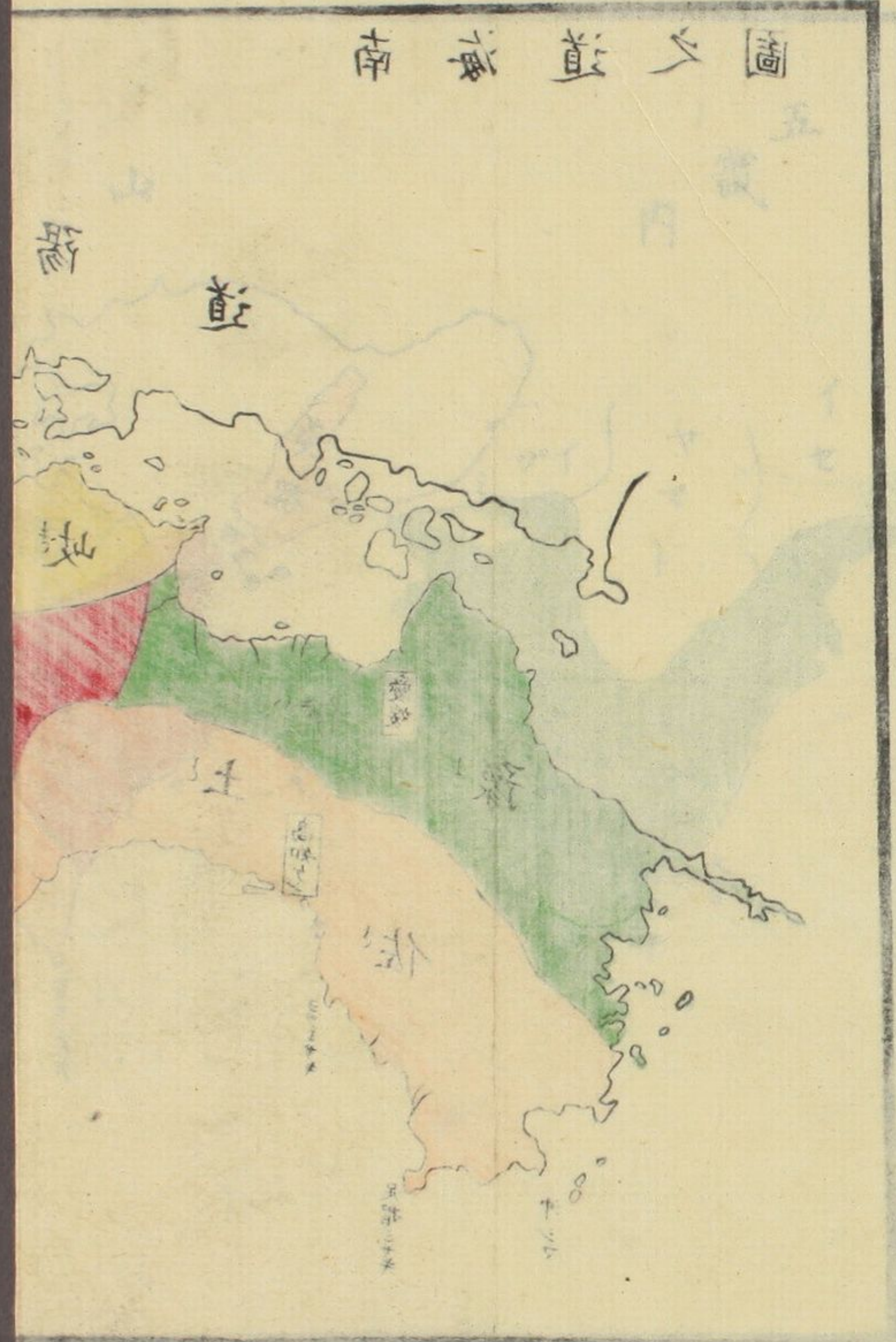
瓜生氏

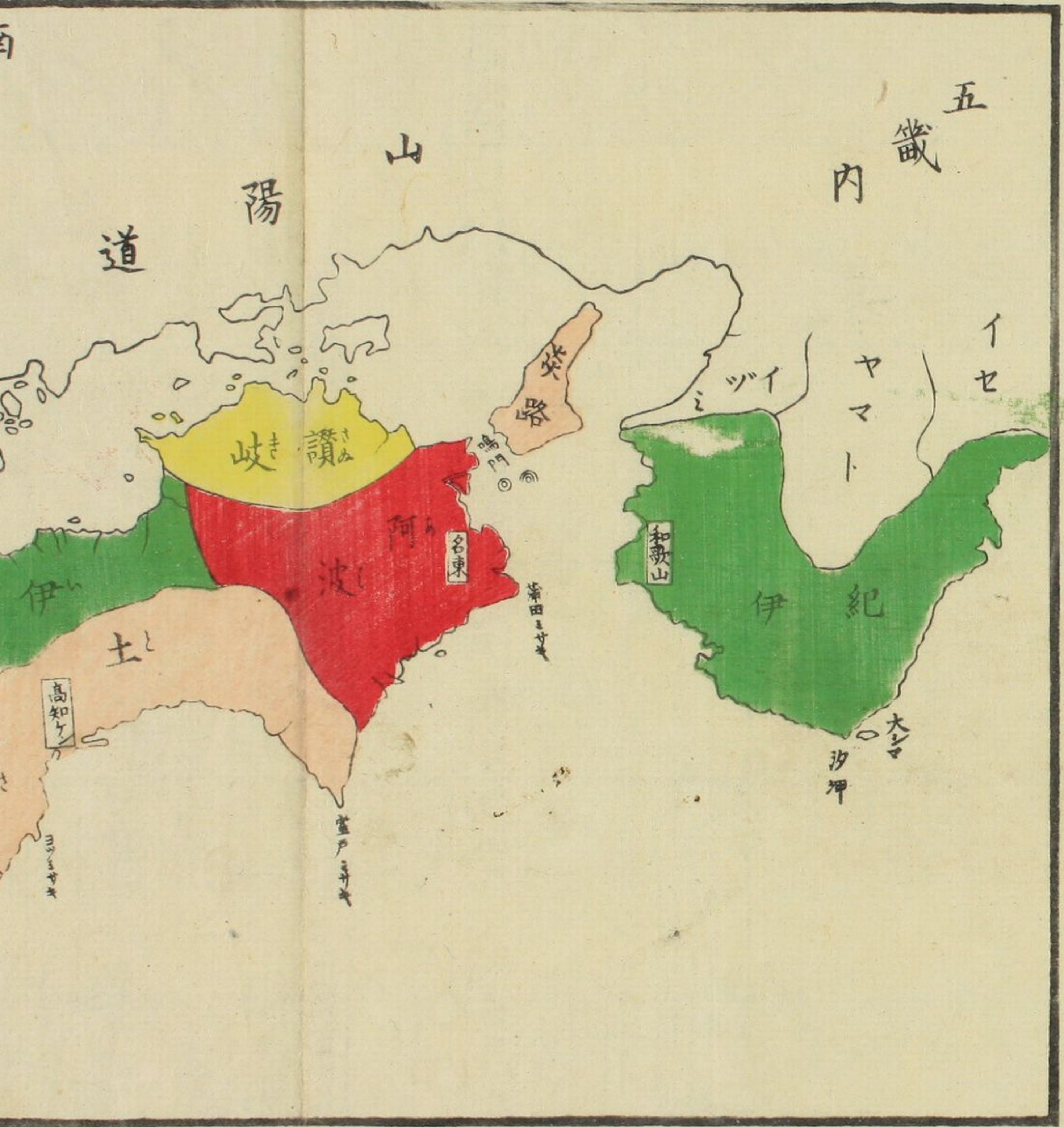
日本國畫

卷七
卷八



圖之南





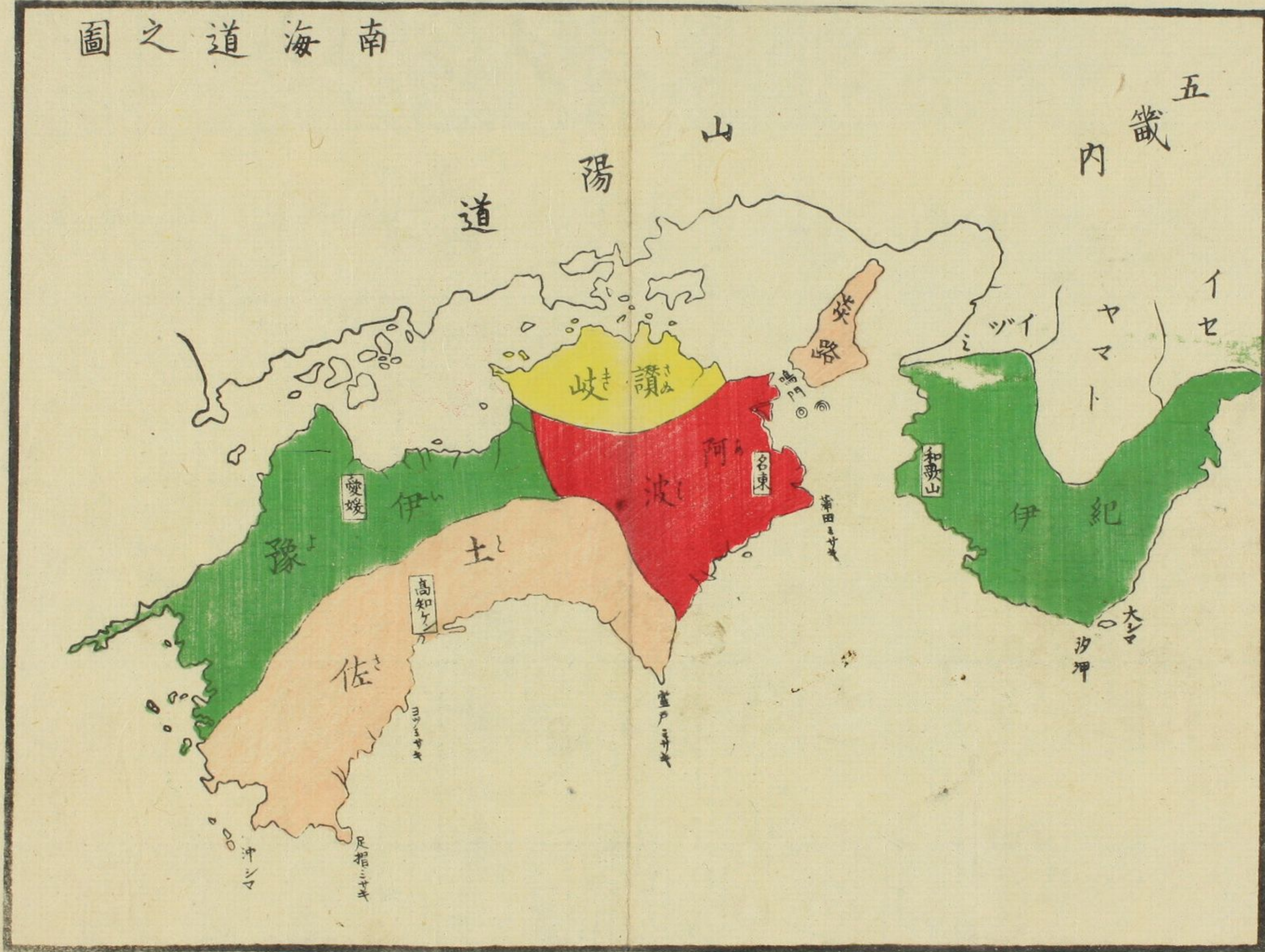
瓜生氏

日本國畫

卷七
卷八



圖之道海南



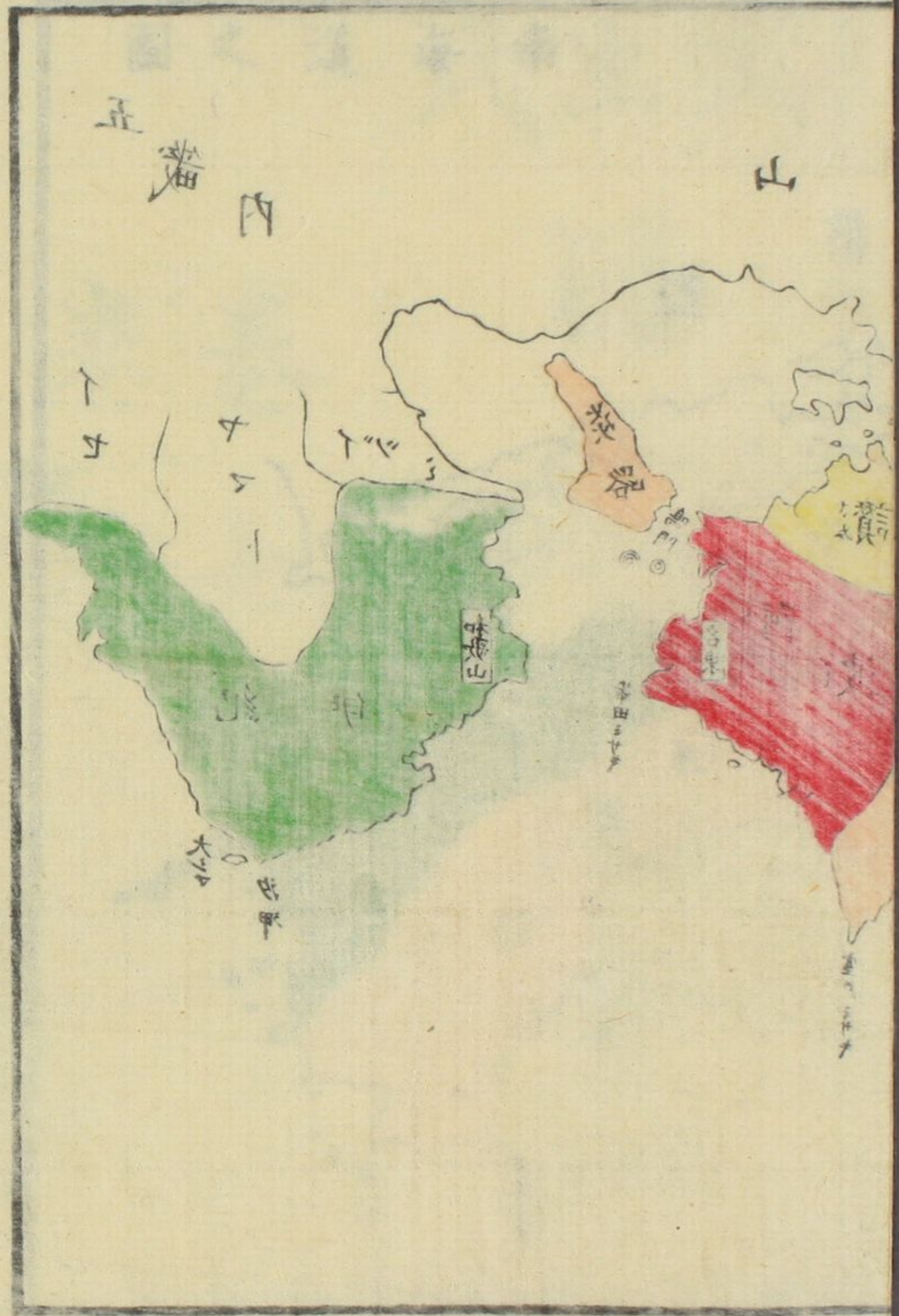
卷卷
八七



瓜生氏日本國畫卷七

南海道の六箇國。

我が日乃本邦南のあり。
東の畿内と東海道地。
續きある我紀伊と正。
畿内の對して内海也。



立ちたる島を淡路能
國其餘は國の口必とて
東を紀伊より北山陽西
を西海九州と海を隔て
る島の必周廻四百五十
餘里。南を總より太平洋。

全道亦必斷續して東
西小引きこ貝り。材木魚鱈
乃利おけり。其物一を
紀伊と以て折磐形の大
國として。南を南海小窓
出。如き大和を引きこ

包み西小河内和泉より
 於此東北の一頭を伊勢
 の國地小地を接する由
 都て山おほく河泉の界
 り末實峠大窪峠根
 来山其南より紀乃川

和歌の浦

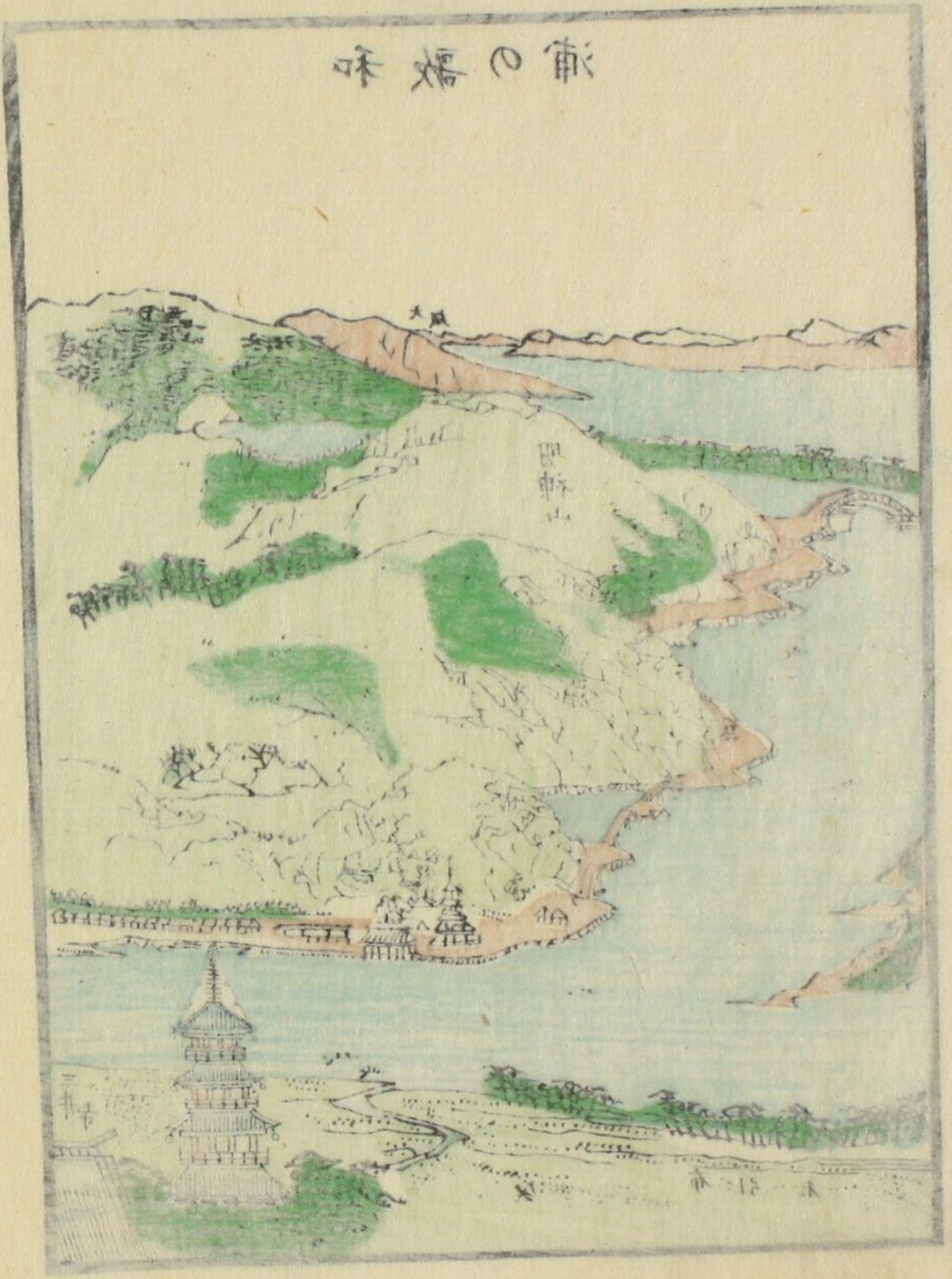


阿比吉野川の下流をり。大津岨や高野山。梨木
 岨を於て南海邊の方々和歌の浦汐をちりぬ
 片雄波芦をささく。浦邊の城市の

大津岨

三

味媛の巖



和哥山と和歌山縣廳乃
所在す。當より一國七郡
併勢り隣まする。率婁
郡の一部を除き、其の殘
りや、余の六郡を策及、轄
す。すなわち南ふと藤代嶮

有田川や方圓嶮雲雀
山り湯淺河鹿脊山や
由良の戸越渡りて出ん
早島川坂を越き、海邊
小田邊と以る市街
ある。富田安宅の二ヶ川

を過きて東南沙見岬
是より北より南海へ突
き出る極端なり
東より近く大島あり沙
の岬と大島の櫻野の崎
より燈臺は如光なるあり

照渡りては地勢北
を指して岬の正北智
山の山よりおはる瀧つ
瀬乃心の塵を砂とし
と名入車轉まるとは長
さ幾千尺なり知事おぬえ

海より遙々の見よきまを
素練を懸ちたること
くたり大和の國乃極
南より流まきて來る音
吾の川の所流ちの心河
口乃南の城市を新宮

みそ是より伊勢の界
まはら連山層岳敷おほ
まはら一帯を總稱
然野とては申さる
まはら深山えおほるま
と都てる海邊を廻

南方一併濱松海
港多き故より九十
九浦の稱ありあまよるそそ
風を暖かほく民の風
俗柔和なり全國七郡
人より四十七の七の餘

於此産物も蜜磁石
蜜柑漆器小生鯨紙也
和布より石色菜蠟塩
椎茸、葱、海
舟二淡路と一孤島周
廻凡三十九里沿海山

取圍^{とり}中^{ちゆう}の却^{くわつ}て平地^{へいぢ}
南北^{なんぼく}長^{なが}く東西^{とうせい}
短^{みじ}く狭^{せま}く其^{その}形^{かたち}鞞^{けん}り
似^に空^{くう}のそ其^{その}尖^{さき}も播磨^{はりま}
攝津^{せつじん}小指^{こさき}をささぐ底^{そこ}の
遙^{とほ}より和泉^{わいせん}地^ぢり對^{たい}し

了^{りやう}躰^{たい}を紀^き伊^い地^ぢとけつ
海門^{かいもん}お隔^{あひ}つ之^{これ}を加^か
田^で乃^の迫^{せま}門^{もん}とつ其^{その}鞞^{けん}尖^{さき}
山^{やま}石^{いし}屋^やとつ播磨^{はりま}地^ぢ
明^{あき}石^{いし}とお對^{たい}し呼^よび應^{こた}
ふる計^{かゝり}なるも夫^{それ}より西^{せい}

南一直線濱の向の播磨
 洋。岩屋を廻る。松帆崎。
 江寄の端。燈臺あり。
 南。三系川。
 東南。流。入。南。
 海。流。入。南。

一つは岬あり。是より
 地方南へ殺。阿波
 向。鞆の口。又東へ
 加田。乃迫。迫門。より内
 由良港。港の水。舟
 湊。本あり。是より西の

城市を有る。いふや、
古の地ありて、
伊弉諾伊弉册
乃二尊始て降りて
之尚古なるを
之尚古なるを

一國二郡人口を二十
二子孫支配を阿波の
系縣風土を
其の産物を諸貝類
陶器小本物
第三阿波を十郡

田國の東の端乃國北を
讚岐より西に方斜小伊
豫土佐地と接し南東
をみよ海邊土地の形を
斜角より西北より伸び
東より小縮より國境山

お伊予伊豫の界より夏
嶺あり土佐界より冬劍
ヶ峯鞆の港を國境港
の東より海部川也また
北より東より日和佐川土
佐より東より東流し

うらふるを海へ入る。
川の東に岬あり東南
に突出する。鞆より北へ
まて是を北地の南濱。
東より西へ檜崎是より
北野稍殺もて。山河数

海へ入る。北の西方海
湾の八のむ地方を徳島
とて淡路讃岐の一國と
當ふ一國ニケル合せし
支配の名東の縣廳は
ある所なる。北は西

を眺まきど。雲あわふらぬる
眉山や。佐吉山の西へ見
志やうの。流るる者地乃石
所なり。吉野の川を伊
豫志佐のふより東りて
志乃北邊を流まき築

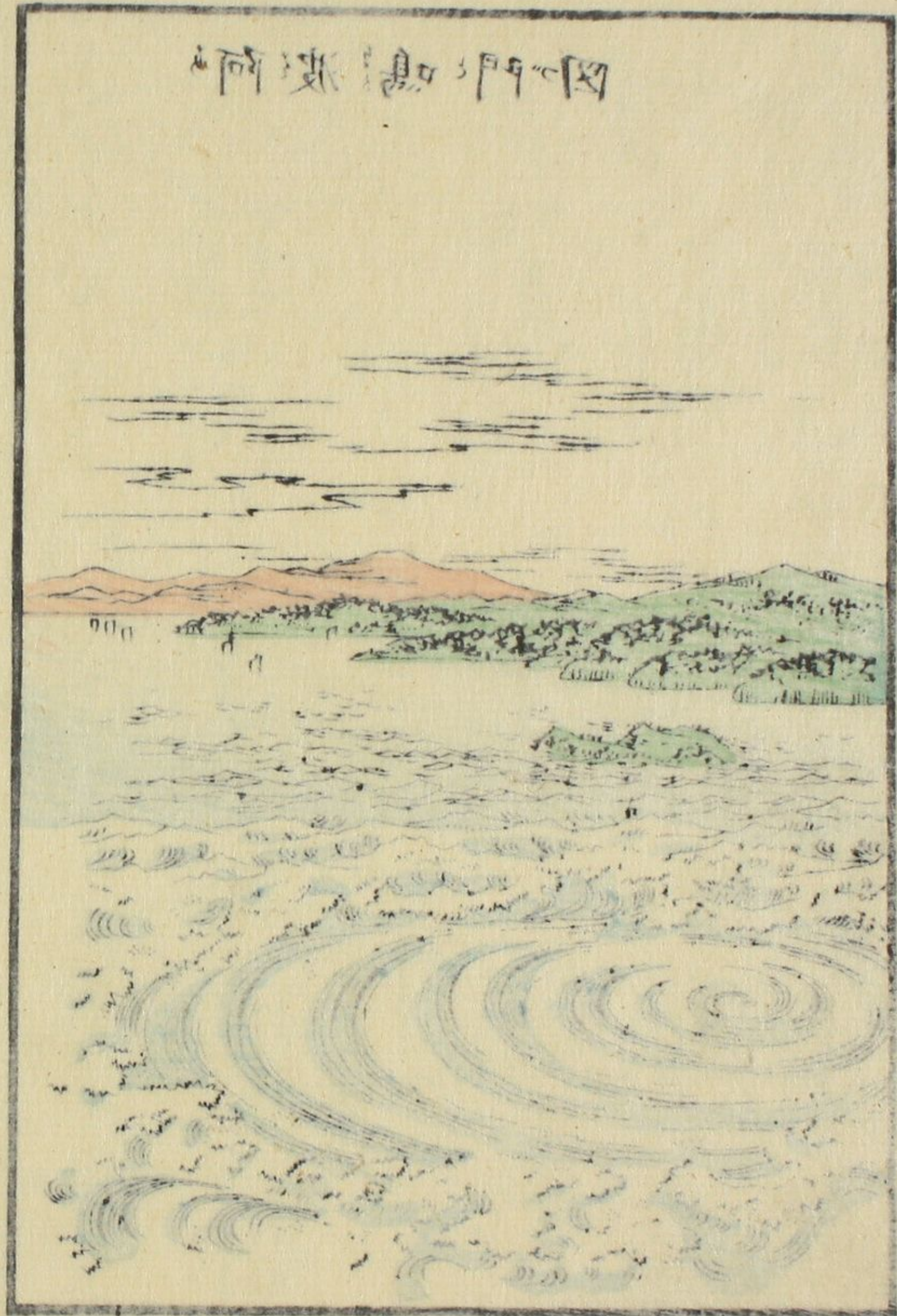
四し分まきそ合ふて徳嶋
の北ふありて海ふ落つ。
灣乃小く北泊是ま
尚ふの東北隅流路と
狭き迫門をたし。其内
海水盤旋し大小二つの

日本海軍史

阿波の鳴門と門の凶



落深を巻き往來乃
船の誤ちて之小觸るま
お霞波の患る脱ま
たしくとや本邦一乃
大難所之を鳴門と稱
まなる里風出る東



海を受事。後者山越
 脊負ふゆゑ暖氣を律
 了。風俗も氣健なり。智
 了。一國一國人口四
 十二万五千余。其物産
 物も藍玉也。陶器も素麩

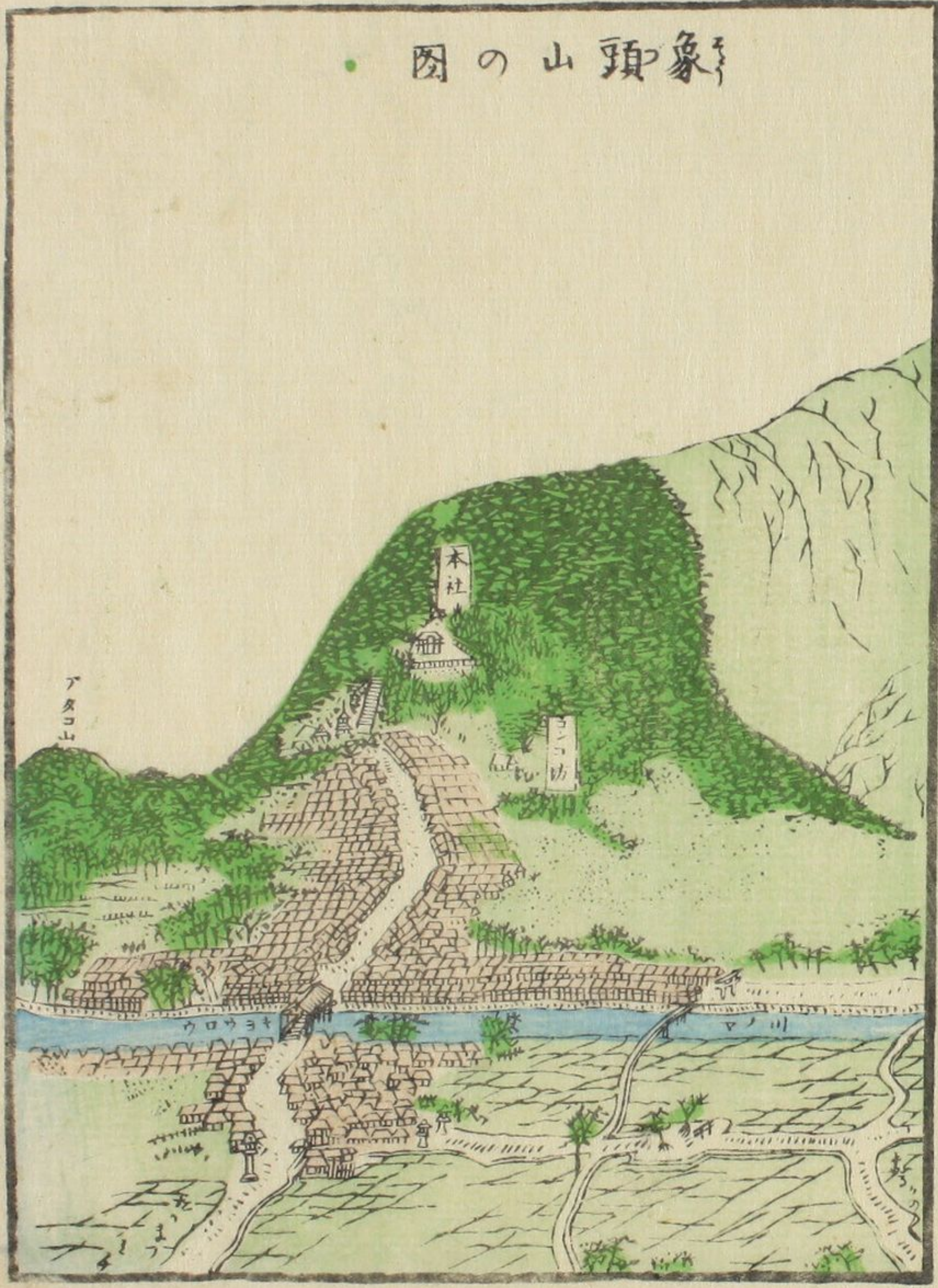
和布類

南海道の第四番瀧波の
南方一帯純阿波の
小界して西南はつふ
伊豫小附く其他三面
弓形り張出て海に向ふ

たる海邊を岬の数をけ
く地形敷き荷葉の
半り以てえよく似たり
國中去て十一郡山おほ
くして水おほく曲ふ
寛田本山川控れ東り

相岬岬の東新田川
 屏風が浦乃海濱の多
 度津の東丸龜乃南の
 方小象頭山山の東北
 湖の水北流して丸龜乃
 西小落る大間川持の

象頭山の図



西岸の二山をくらやむる
 飯野山といふ丸亀城乃
 東より三川流きて海に
 入る。東の方乃一川を綾
 川といふ河よりして宗徳
 帝、綾葬りて綾の松山

日本圖書卷二

十六



飯野山の國

於此水之河の東に乃
生崎の又東に南より
流きてそ落る加茂川あり
川の東の海岸を高松
の市街ふきけり之國
の身半乃處なり夫よ

至三四乃河を經て西に
曲て乃出する岬は高松
をちハ島として源義經平
軍を伐す破る古
戰場ハ嶋の南を五劍山
峯の形を五振の劍を植

しこくくたなり。山脉東
小連るまて。八栗山の麓小
志度の港也。志度乃
浦。浦小落込む長尾川。
是より地勢漸く小東
南小轉向。福田八野乃

諸川水海小流きそ其末
を。遂り阿波との國界。
持む伊豫と當國乃。
向ふ北の中。小地海を
隔て持能内。大小島
興早はごと。碁石の如く

散列さんれつ之のを八百八嶋はちやっぺいと云いて
其中そのうち尤もつとも大だいなる者もの志度しど乃なり
北きた少すく々々小豆島せうまじま九亀沖くかみおき小
塩籠島しほりま其數そのうずあ七しちの嶋しま人ひとを
水みづを郷さと々々々舟ふねをかかか一いち
國くに人ひと口くち四よ十じゆ萬まん支し配はい阿あ

波なみの石いし東とう縣けん其その産さんを
黃海わうかい氣きあらし
才さい五ご乃なり伊い豫よ々々東南とうなん小せう
土佐とさの瀨せ戸と々々々東とうの僅わずか
小瀨せ岐ぎ地ちと阿波あの地ち端はた小
地ちを接せつ々々北きた々々々西せいの總もつとて

海海濱岬灣ウミウミ岬ミサキ灣ワタ岬ミサキ交カと土ツチ地チ
の形カタも良ヨシくクとト岬ミサキも長ナガクく
延ノビびビ橋ハシ中ナカ短ミダクくク西セ南ナンも至いたるル
るも随したがひヒ狭セくクとトも國クニ中ナカ山ヤマ
乃すなはちチ數かず也なりほくく土つち佐さの界さかいりり結むす
東あづま方かたも寒さむ川かう山やまああるるも石いし槌づち

阿あも持もち能の中な程ほども唐から岩いわ
山やま嶺のり西にしの方かたもも世よ山やまああるるも
山やまの北きたもも吉よ野の川が流ながれるも
土つち佐さの國くにももいいるる濱なみ邊への東あづま
積たか岐か地ちの岬みさきとと灣わたををあ
し中なも川が能の江え入い野の川が注す

ある西小西条と小松とい
つる二市街ありと小松乃西
の長野川越えと西小海灣
乃あるとありと今治の類
繁集の市小と持宮崎の
鼻より西に出る地勢是よ

西へ西北小向き
をなると持中程り今
津ありと今津の東南松
山の城市に全國十四郡を
支配し玉小廳ありて之を
愛媛縣といふ南小道後の

温泉河も今津の西の沖
 中ふ播盆形乃鳥山ハ伊豫
 乃小富士れ名も高きそ
 海岸の弓形の己小書置きた
 る変よりと象の鼻小よく
 似たる一ツの岬西南長く

湾よりそと突出し南海湾
 を圍ひ込む岬の本の肱
 川も南土佐よりと流きて東
 て北は川上乃西岸の大
 沙も南湾小お臨む市
 街乃東小菅生乃山を

日本國書卷六
乃かきしるるる根より國
の中央小位をり是より架
地勢も南轉し豊後の國
小お對し極南土佐の界ま
不岬之つ小灣之つ中一灣
乃地の方を於たるるるる

和島市街と初き此は海
上嶋おほく其石を敷き
がくくくくくく風も温暖人
口も五十二の系九千余國
産紙り胡麻大豆
南海道の中より土佐を

日本國書卷之廿四
甲國乃南端形を鎌形
身のござく脊方西北
伊豫乃國把の脊阿波
乃必母方を都てみか南
海國中七郡大國より長
さる百里の濱はづき山陰

く且おほく東南の隅
小野根山あり阿波の家
り真山あり伊豫の界小
白髪山矢筈山や郡山津
那山羽山並に東南仁井
山のはまに榎本山を北の方

日本書紀卷之二十一
橘倉山。仁井の西南和久
利山。西南の隅。小月山あり。
さくさく河を敷き。阿波界
より野根。名和利。安藝也
物部の水流。野根を野
根山より東。南海中。小

注ぎ。入る。余の之水。を悉く。
西南。さくさく海。小月。物部
の分流。末より。牛久川を
北より。知る。市街を狭
み。さくさく内海。一流。を
知る。当。一。國の。管。轄。廳の

阿る所之を高知縣といふ。
其北境の山は阿波の吉野
乃水源なり。牛久の西三流
川伊豫より國を横截す
多宇佐の港より海へ入る
伊豫の吉野乃川水は渡川

とて西南の國乃極端と流
通を國乃中間を海の水
築の方より一里余を八
底いさ知なるまかく八
海灣の地方を港と岬
水陸互ふ凹凸一母の虧缺

たゞ形なり。東の隅よりま
さし出たる。室生戸崎、柄
乃端西南隅より足摺崎。
まあるもち鐘の鋒乃尖二つ
の岬お對し。此海湾の門
とある。きの知の東南十餘

里の海客も白沙青ねの
風景画くぐりて。紀
乃費之が日記もえ。宇田の
松原と記せし。こゝは
をいつめあらん。國中人口四
十萬。風おと殊小温暖ふ

て人の心子眞い古方多錢也
國產弱小輕節海草羅帳
子右布紙類冊珊瑚珠槍皮
諸林木者なり

瓜生氏日本國畫卷七終